

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：3歳児クラス)

モニカ矢口渡園

Monica

テーマ

紙を通じての関係性

設定理由

色の探究活動から折り紙へ興味を持ち遊びに使用する姿が増えた。折る、書く、丸める、投げるなど様々な姿から紙を素材として活動することで、静と動の活動を経験しながら素材、友だち、周りの環境との関係性をより育てたいと考えた。

自園は、光が差し込むホールや、散歩コースに季節ごと変化を見せる大きな木がある神社があり紙という素材に様々な角度から関われると考える。

対象クラス

3歳児クラス・11名

活動のねらい

紙を通じて互いの関係性を育む

問い

「どうみえる」「どんな音がする」
「どんな感じ」「どんな気持ちだった」

活動期間

令和7年11月～令和8年3月

活動回数

計4回

活動①

様々な紙に触れる

ねらい

全身で紙の厚さ、感触、音、見え方など違いや面白さを味わう。

問い

「どんな感じがする」「どうみえる」「どう違う」

活動内容

様々な種類の紙に実際に触れる。

環境構成

様々な種類の白い紙を用意する。（素材として紙の違いを味わってほしいため色は統一）
紙を置いた机は、自然光が入る位置や入り口から若干奥側に設置することで、子どもたちが期待感を持って紙へのアプローチの気持ちを高められるようにする。

活動②

光にすかして紙を観察する

ねらい

ツールを使用することで、違った見え方に気づく。

問い

「どう見える」「どう違う」

活動内容

マイクロスコープやトレース台を使用することで、じっくり紙に着目したり、ツールを使用することで見える世界を体験する。

環境構成

ツールを使うことに気持ちが高まってしまうことが予想されるため、事前にツールに触れる時間を設け、活動時には紙に着目をできるようにする。子どもたちの気づきや想像を大切にするため、少人数のグループで行う。

活動③

全身を使いダイナミックに紙を通じて友だちと遊ぶ

ねらい

紙をダイナミックに使い、友だちと関わる。

問い

「一緒に持ってみたら」「どこにつながるのかな」

環境構成

入り口から奥に様々な紙を設置する。気持ちが高められるように紙の様々な表情が現れるようにする。友だちとの関わりが持てるように、サイズは大き目だったり、ロール状の長さがあるものだったりを用意する。

気持ちが高まりすぎてしまう可能性があるため、状況を見極めて声掛けや事前のメンバー構成を配慮する。

活動④

子どもが訪れている神社を紙でつくる。

ねらい

これまで、子どもたちが得た紙の知識と可能性・特徴を子どもたちはどのように実行するのか。お互いの考えを共有しながら、どの様に創り上げていくのか。そして、子どもたちがどの様に公園を「みて」いるのか。

問い

「神社について教えてくれる」「どんなことをするのが好き」

活動内容

グループごと紙を使い、友たちとの遊び場の神社をつくる。

環境構成

机、椅子、黒模造紙、今まで使用してきた紙、糊、卓上ライト
神社を作ることが目的ではなく、子どもたちが神社をどのように見ているかが重要。また制作していく中で友だちとの関係、自分たちと神社（周りの環境）とどのように認識し関わっているのかを大切にしていく。

使用物

トレース紙 | レシート紙 | 不織布 | 梱包用紙 | 緩衝材紙 | 模造紙 | 和紙 | ペーパーナプキン
グラシン紙 | かた段ボール | 糊 | 机 | 椅子 | マイクロスコープ | トレース台

テーマ：紙を通じての関係性

全体の振り返り

紙を通じて周りの環境（人的にも物的にも）との関係性を深めて欲しいという思いのもと活動を行ってきた。回数を重ねるうちに友だちの行動や言葉に意識を向けたり、協力をしたりする姿が増えてきた。紙自体の多様な面白さを体験しながら、子どもそれぞれが自分の役割や居場所を感じながらの活動になった。子どもたちが親しみある場所を制作する活動では、グループによって展開が全く違ったのだが、友だちという存在を感じながら表現ができたのが良かった。

きりん組（3歳児） プロジェクト保育① 様々な紙に触れる

【実施日】 令和7年11月21・28日

【時間】 10:00～10:30

【場所】 ホール

【テーマ】 紙を通じての関係性 [プロジェクト保育① 様々な紙に触れる]

【ねらい】 全体を通してのねらい●紙を通じて互いの関係性を育む

今回の活動のねらい ○全身で紙の厚さ、感触、音、見え方などを味わう。

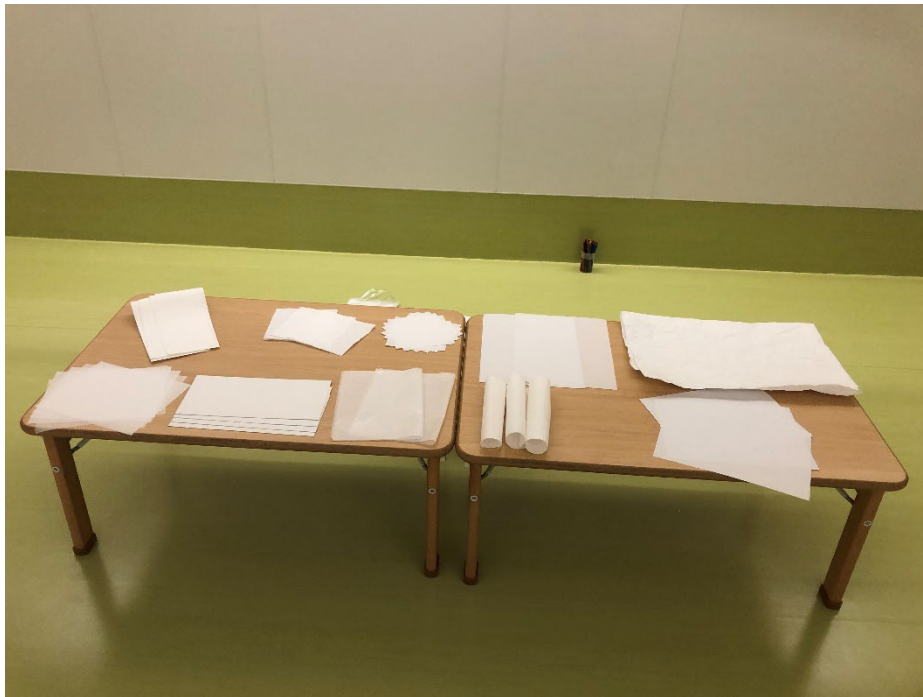
○紙の可能性や面白さ違いを味わう。

【問い】 「どんな感じがする」「どうみえる」「どう違う」

【準備物】 コピー用紙、トレース紙、和紙、画用紙、ペーパーナプキン、厚紙、机

【環境】 ・子どもたちが期待と考えを持ち関われるように、ホールの入り口から距離を取って設置する。また、照明にも配慮しできる限り自然光を意識する。

・様々な紙を用意するが色は白で統一し、素材の質感や特徴に注目できるようにする。



●紙の音を聴く

紙に触れたときに音に興味を持ち、丸めた時の音、叩いた時の音、投げた時の音、振った時の音などいろいろな方法で試していた。

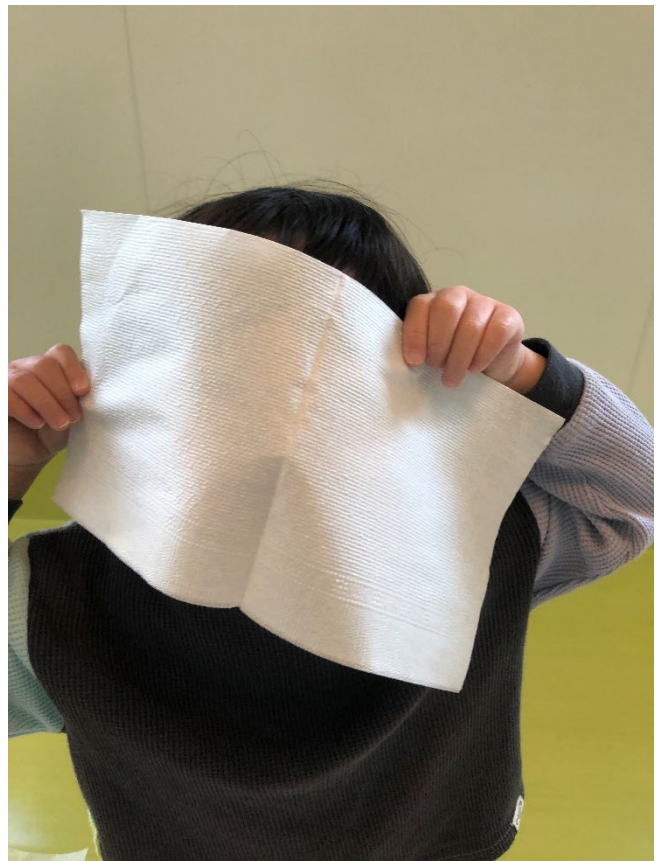
「ポッポッポ」「によろ〜りと聞こえたなど」などと言葉で耳に届いた音を表現していた。



●紙で隠れる、隠す

薄い紙を手にとると顔の前に持っていく。

うっすら前方が見えることに気が付くと自身の服や上履きにあて、模様の透け具合などを繰り返し面白がっている。



●丸める（筒状にする、球体状にする）

紙を手にとると、床に置き端から筒状に丸める。最後まで丸めると目にあて望遠鏡のようにする。
球体状にすると、ボールのように投げたり、広げて紙にできたしわ（線）をみつめたりしている。

●折り線、しわのついた紙を自然光にかざす

広げた紙についた線を見つけ、自然光が差し込む窓にかざす。

するとさっきよりはっきりと線が見えてくる。

幾重にも重なる線、軌道を目で追い、指でなぞる。

複雑に絡み合う線が織りなす模様が、新たな紙の表情をうきあがらせる。



●比べる

紙の質感、厚さ、色の濃さ、匂いなどを実際に触れ感じていく。

その中で、友だちにもその気づきを伝えている。



【ふりかえり】

折り紙に興味を持っている子どもたちの姿から今回の『紙』を素材としての探究が始まった。まずは、素材をよく知ることに重きを置き活動を行った。子どもそれぞれの関わり方、感じ方が多様で、その姿を伝えたり、認識したりすることで真似や笑い、気づきが飛び交い紙そのものや普段の遊び以外の友だちとの関わりを見ることができた。

きりん組（3歳児） プロジェクト保育② 紙と光

【実施日】 令和7年12月22・25日

【時間】 9:45~10:15 10:20~10:50

【場所】 ホール

【テーマ】 紙 [プロジェクト保育② 紙と光]

【ねらい】 全体を通してのねらい●紙を通じて互いの関係性を育む

今回の活動のねらい ○ツールを使用することで、違った見え方を味わう

【問い】 「どう見える」「どう違う」

【準備物】 トレース台、マイクロスコープ、タブレット、和紙、トレース紙、机、椅子

【環境】 じっくり紙に向き合える環境を設定することで、紙の違う表情に着目できるようにする
少人数のグループで行う

ツールに気持ちが行ってしまうことが考えられるので、事前に触れる機会を設けておく



- ・子どもたちは、机と椅子で観察をおこなう。
- ・トレース台、マイクロスコープのどちらかも紙を選択できるようにする。
- ・子どもの気づきを尊重するため、保育者は見守る姿勢で、必要に応じて問いかけていく。

●マイクروسコープでみる

拡大された画像に興味を示し、指でなぞる。

紙とタブレットの画像がリングしているかを確認めるかのようにスコープを動かしていく。



●トレース台にのせみる

トレース台にのせる。厚い紙は光が透けない、薄い紙は透けて見える。

折り線が黒く見えることに気づく。

しわしわに丸めた紙は、複雑に絡み合いたくさんの道のような。



● 1枚の紙の重ね具合で見え方が違う

紙を折っていくことで、光の透け具合が変わることに気が付いた。

友だち同士みせ合いながら、互いの紙を比べる。

友だちの気づきに着目し、輪に加わる人数が増えていく。



【ふりかえり】

前回のプロジェクト保育①で自然光に紙をかざしている姿をもとに、活動を展開した。

着目できる環境を設定することで、紙の表情や変化に意識を向けて、意図的に折ったり、模様を探したりする姿が見られた。子どもの気づきをきっかけに、気づきを共有し実際に試す姿に広がった。

きりん組（3歳児）プロジェクト保育③ ダイナミックに紙で遊ぶ

【実施日】 令和8年2月24日

【時間】 9:30~9:50 10:10~10:30 10:40~11:10

【場所】 ホール

【テーマ】 紙 [プロジェクト保育③ ダイナミックに紙で遊ぶ]

【ねらい】 全体を通してのねらい●紙を通じて互いの関係性を育む

今回の活動のねらい ○紙をダイナミックに使い友だちと関わる

○大きい紙、長い紙の楽しさ、面白さを味わう

【問い】 「一緒に持ってみたら」「どこにつながるのかな」「どんな風になっている」

【準備物】 レシートロール紙、不織布、かた段ボール、緩衝材用紙、和紙、机

【環境】 子どもたちが興味関心を持って関われるように、設置する場所を入り口から距離を取ることで、気持ちを高めることができるようにする。



●レシートロール紙をほどく

ロール状になっている紙をほどいていく。ほどき方は、子どもそれぞれ。転がす子もいれば、ロールの中央部分を押しだす子もいる。中でも大きい業務用のロールは、ホール中を転がしている。紙が転がった後の紙の軌跡より、ロールを転がす行為を面白がっている。



●紙と一体になる（埋もれる、まかれる、挟まる）

長いロール紙を体に巻き付けたり、ロール紙の中に埋まったりする。
片段ボールで空間を作り中に入ったり、寝転がったりする。
紙に全身で関わることで、音、匂い、肌触りなども一緒に味わっている。



●友だちと一緒に

ロール紙の端と端、片段ボールの空間の中、紙をきっかけにして、片段ボールの上、ロール紙の山の中… 紙を通じて自然と友だちが傍に寄ってくる。力や方向を合わせる。しぐさ、言葉、目線があったりなかったり、でも気づいたら友だちと繋がっている。





【ふりかえり】

大きい紙、長い紙と一人では扱いにくい部分を友だちと一緒にすることで、発見できる楽しさもあると考え今回の設定をした。盛り上がり気持ちが高まり過ぎてしまう場面もあったが、その気持ちの盛り上がりには、友だちと一緒に空間や時間を共有している要素も多かった。普段関わりの少ない友だちにも自然と声をかけ、意識している姿が見られた。

きりん組（3歳児） プロジェクト保育④ 遊び場を紙でつくる

【実施日】 令和8年3月23日・25日

【時間】 9:30~10:15 10:30~11:15

【場所】 ホール

【テーマ】 紙 [プロジェクト保育③ 普段訪れている遊び場を紙でつくる]

【ねらい】 全体を通してのねらい●紙を通じて互いの関係性を育む

今回の活動のねらい ○子どもたちが得た紙の知識と可能性・特徴を子どもたちはどのように実行するのか

○お互いの考えを共有しながら、つくりあげる

○子どもたちがどのように遊び場（安方神社）を「みて」いるのか

【問い】 「安方神社について教えてくれる」「どんな遊びをしている」「どんな気持ち」

「安方神社はみんなのことどう待っている」

【準備物】 机、椅子、黒模造紙、今まで使用した紙、糊

【環境】 ホールの自然光が当たる場所に紙をセットした机を準備する

制作に入る前に子どもたちと対話の時間を持つので、そのスペースも空けておく

動的欲求が強いので、子どもの様子によっては実際に動けるようにする

小グループごとで行うことで、子どもそれぞれが自身の意見を言いやすく、

友だちの意見を認識しやすいようにする



●対話 安方神社について教えて

「こうやって線路あって行くとあるよ」「走ってあそぶの」「すなあるよ」話をする中で、場所の認識、どんなことが好きか、どんなふうに遊んでいるかを言語化して伝えている。時には、どう走るのか、氷鬼がどんな遊びなのかを実際に動いて教えてくれる。



●紙からイメージを膨らませる

ロール状の紙は湾曲した滑り台に、カーブのついた紙はトンネルに、薄い紙をちぎって雨に紙の形状や性質をとらえて自身のイメージを伝えていく。



●遊び場をつくる 紙と糊

「ここは、走る場所」「ここから入って」黒い模造紙の上に自分のみんなの遊び場、あそびを広げていく。



●紙を通じて友だちとつながる

紙が丸まってしまう思うように貼れない、長く伸ばしたい、ではどうしたらいいのか？

「ここ持っていて」「一緒におさえて」優しい声が飛び交う。一緒にやったらできたよ。

紙が丸まらなかったよ。お友だちの力を借りることで、模造紙の上の遊び場が豊かになっていく。



●ぼくのわたしのみんなのあそびばができた

紙でつくった安方神社ができた。自分の貼ったところはもちろん。お友だちと一緒に貼ったところ、つながったところをじっくり見る。自分たちが作った満足感、形になった充実感、友だちで行った面白さや気づき様々な気持ちに満たされた。

【ふりかえり】

今まで、紙にたくさん触れる中で、特性をよく認識している子が多かった。

紙を通じて、紙との関係性、友だちとの関係性、周りの環境との関係性と様々な関係を体感していた。子どもたちが新たな関係をつなげていく中で、言語だったり身体動作だったり、また相手によって伝え方を変化させていたり表現方法も多彩であった。

作り上げていく中で、実際の記憶を共有したり、想像の世界を伝えたりすることで認識も高めていたように思う。

遊び場という空間を作り上げる中で、子どもたちの無限の可能性と能力を感じさせられた。





株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ矢口渡園

〒144-0054
東京都大田区新蒲田2-10-5
TEL:03-6424-5833
FAX:03-6424-5875